
誰そ彼刻

黒猫。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰そ彼刻

【Nコード】

N9110P

【作者名】

黒猫。

【あらすじ】

橙色の陽の光と、電車と、それから、青色の街

大好きな貴方は、何処にいますか

貴方が帰ってきてるって聞いた
そんな日

最近全く使わなくなった駅のホーム
弱々しい寒いようなそんな陽が私の影を長々と映し出して
電車がくるのをひとり、待った
待って、待って、待った
ホームには誰も居ないし、電車は一時間に一本も来ない
駅員さんも見あたらない
私と、私の長い影だけがホームにいる
そんな空間

貴方が帰ってきてるって聞いた
昔親しかった友達伝いに
突然いなくなった貴方と、何故かすんなりそれを受け入れた私
連絡先も分からなくなつて、貴方の携帯番号だけは残ったけれど
それにすら連絡しなかった
連絡するべきじゃないと思つてた

電車なんて使わない
そんなものここでは不便なもの
乗り過ごしてしまったら次は一時間後
否、二時間後かもしれないし、来ないかもしれない
でも、貴方に会いに行くときだけは別
歩いて行くには遠すぎるし、車の免許は持っていないし、バスで行
くには早すぎる
一時間に一本の電車を待って、会いに行く時間を楽しむ

その方が、楽しかった

ゆらゆら、揺れる

長い影と、昔より長くなった前髪

マフラーに埋めた髪は、揺れない

色とりどりにした手の爪先を眺めて、時間を潰す

近くの、遮断機の音が聞こえる

もうすぐ、電車が来る

目の前に止まった、二両編成の電車

赤と、緑

今日は、一両目が赤で、二両目が緑

何だか、クリスマスみたい

乗るたびに、色の違う電車

何でこんな色にしたんだろうっていう配色や、色の組み合わせが愛

おいしい電車

今日は赤い方に乗る

だって赤の方が可愛いから

揺れる、がたんごとん

車内には誰も居ない

何時にもまして、誰も居ない

陽の当たる空席のシートには座らずに、ドアの付近に立った

この位置からは運転手さんが見える

切符を片手に持ったまま、そこでの時間を楽しむ

橙色みたいな陽の光は暖かい

このまま眠ってしまえるくらいに

何駅も止まって、何駅も通り過ぎて、結局誰も乗ってこない

まるで、私だけがこの世界から切り離されていくみたい

外の景色は冬枯れていて寒々しいのに、こんなにも私は暖かい
どんどん、橙色に包まれていく

ドアが開いた

橙色の世界はお仕舞い

冬枯れの世界に足を踏み出した

藍色のホームには、また誰も居ない

片手の切符は渡せずじまい

駅を出て、歩き慣れた道をたどる

こっちは、雪が降っていたみたい

路肩にはまだ雪が残っていて、道は濡れている

滑らないように、滑らないように、私は走った

こまはなだいろ
深縹色の中を、走った

黄色と茶色の靴の色だけが、あの電車の中の暖かさを残していて

でも、その靴ひもが解けて青色になっていくのも気にならない

どんどん息が切れていく

どんどん胸が苦しくなっていく

寒さで耳は痛いし、頬も冷たい

私の表面が、どんどん青色になっていく

マフラーにこされた白い息をたくさん吐いて、冷たい空気が肺の中
を巡っても

私の中だけは、赤い橙色だった

貴方が家にいるのかも分からないし、もう引っ越してしまっている
かもしれない

私のこと、覚えていないのかもしれない

他に女の子が居るかもしれないし、お友達にいるかもしれない
家族にいるかもしれない

私は、只、迷惑かもしれない

それでも、足は止まらない

喉も肺も、乾燥してしまっただけ

足を止めることはしなかった

自己中心的で、利己的な私は大嫌いだ

大嫌いで、大好きだ

だって、貴方が好きになってくれた私だから

嗚呼、このまま、世界が終わってしまえば好いのにな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9110p/>

誰そ彼刻

2011年1月8日20時01分発行